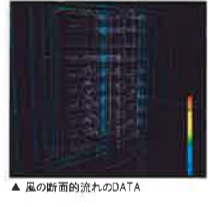
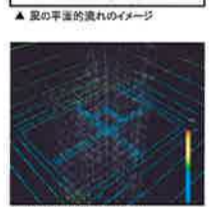


「東京松屋」は「江戸からかみ」の版元問屋として江戸時代から伝統を今に受継ぐ。全体がその魅力を再認識し「伝える」場の計画。低層に「見る、知る」ことで「伝える」ショールームが入り、多彩で多様な和紙の可能性を展開している。上層には「住む、体験する」ことで「伝える」賃貸集合住宅が重なる。色彩や文様を施した和紙、引戸による可変空間、障子、欄間開口など伝統的要素と現代生活空間の融合をはかった。中層の空中庭園と光風の道となる吹抜や共用廊下により全体を接続している。住戸階の5つの吹抜け「well」は垂直の光風路として生活気を上昇気流で有効に排出し、天空光を下階へと導く。十字状の共用廊下も水平の光風路として、心地よい気流と光にあふれる空間を生み出している。都市の高層建築に心地よい外部空間を創るとともに、障子、縦格子、庇など伝統的な日射遮蔽要素と用いた多様な「内外の関係」で外観を構成し街と対話させた。伝統と現代性の共存、都市空間での快適性を目指した、空間・環境・設備の統合的計画設備計画と光や風の流れをうみだす環境計画、そして豊かな外部空間もつ開放的な空間性。それらが相互に深い関係性をもって一体に纏められることからデザインも生まれてくる。過剰な設備や先進技術を用いなくとも、空間・環境・設備が新たな関わりをもった統合的計画としての建築を目指し、いわば都市における美しい造形を保った環境設備として位置づけたいと考えた。



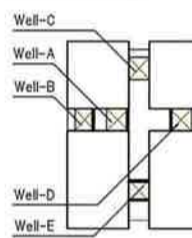
●風のシミュレーション

住戸階を十字状に抜ける共用廊下の水平の風、都市の中でさわやかな風と出会う場となる。機能的に生活の排気を促し、吹抜けの上昇気流。



●太陽光集光装置のシミュレーション

well-Aの屋上部に設置した太陽光集光装置 中央の吹抜けを「光の道」を介して共用廊下や空中庭園へ光を導く。快晴時の設計照度を空中庭園レベルで1300lx、実装後の実測データで1800lxを確保。



▲風の断面の流れのDATA

太陽光集光装置 4階植栽部まで太陽光を導く

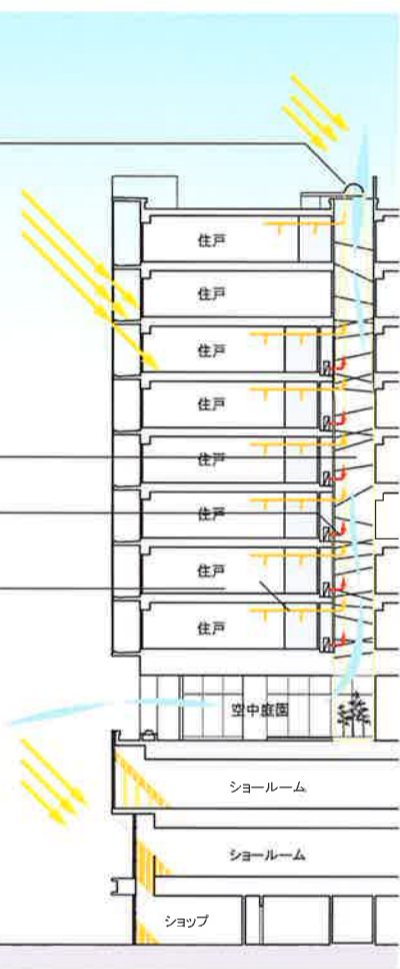
ルーバーや障子により 日射をコントロールする

well 降下する光と上昇する風とが 交差する機能的かつ 環境的エリアとなる

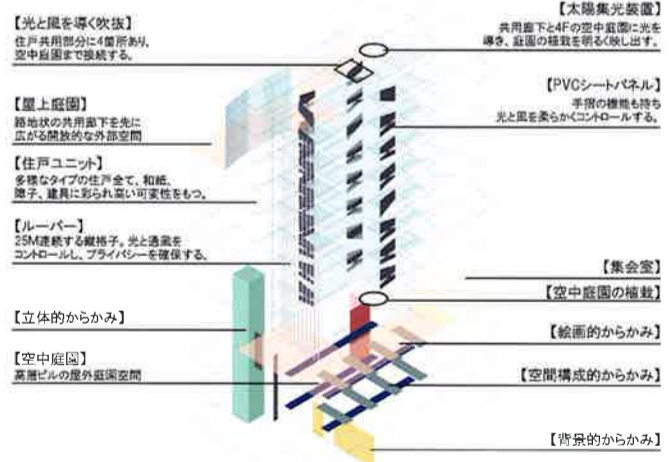
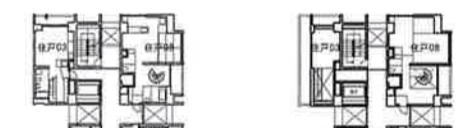
空調屋外機からの排気 居室内からの排気

光と熱負荷をコントロールし、 外観にも活かされる障子

日射による熱負荷を考慮 した実行のあるファサード



- 部分断面図 1:200 -



- 建築概要 -

主要用途: 1~4F 店舗・オフィス・ショールーム 5~12F 共同住宅
用途地域: 商業地域 敷地面積: 452.97㎡
建築面積: 409.21㎡ 建築率: 90.34%
延べ面積: 3703.29㎡ 容積率: 665.99%
構造: RC造 階数: 地上12階

Table with columns for evaluation items, design responses, and scores. Includes categories like Aesthetic Quality, Technical, Social Contribution, and Life Cycle Cost.



住戸 障子による断熱効果と引戸による可変空間をもち、和紙で彩られる



コート 内部と外部空間の連続。植栽上部は集光装置のある吹抜け「well-C」



障子、縦格子、庇など伝統的な日射遮蔽要素による構成

江戸からかみを中心に 伝統素材と色彩に彩られる多様な空間



店舗2F～3F 吹抜置面：虹柄色具引ぼかし上げ 木版「萬」金華箔襷の上に波型「雲」青竹色縞り

店舗1F 障子置面：琥珀色縞箔しに木版「光琳」若竹色縞りグロス仕上げ

店舗2F～3F 畳上天井：異色色縞引き 下がり天井(桁方向) 異色色縞引き

店舗2F～3F 土佐子通き障子の子紙 異色色縞引き(4色)・異色色縞引き(5色)

無難美しく右官材仕上げ

伝統色による色彩